

5月28日の日曜日。昼下がりの佐須公民館に、地域の人が集まっています。そこで開かれていたのは、認定NPO法人「ふくしま再生の会」の健康医療ケアチームによる集会です。参加者は、代わりばんこにフットケア(足の手入れ)や脚のマッサージを施してもらい、待ち時間には、来訪した皆さんと入り混じって会話を楽しんでいます。佐藤公二区長は、「親世代が帰村して、2地域居住の家族が増えている。帰って来た人を元気づけてもらえて、うれしいね」と会場を見渡しました。

こうした集会は、会が、2年前から松川第一及び伊達東応急仮設住宅で開いてきたもの。村内開催はこの日が初めてで、今後毎月、最終日曜日に開かれる予定です。時にはおいしいものを作って食べたり、暮らしに役立つ勉強をしたり、さまざまな企画も用意されています。

協働で拓く 再生への道

「ふくしま再生の会」と語る

佐須地区以外の人でも、避難を続ける人でも、参加は自由。予約もいりません。「4月に帰って来た。6年も家を空けたから、やることも多い。それでもふるさとはいよいよ」「私は息子と福島市で暮らすの。だから村内の催しに来るのは何だか気がひけて。でも今日は声をかけてもらい、来てみて本当によかった」。健康医療ケアチームでは、医師や看護師、介護福祉士や臨床心理士などが、その専門知識を生かして、村民に寄り添う活動を続けています。

「ふくしま再生の会」では、他にも、村内の線量モニタリング、土壌・植物などの放射線分析、農業再生・山林再生の実証、視察ツアーのコーディネートなどを行っています。

村の再生に力を貸してください。震災直後の「出会い」だったといえます。



佐須公民館(旧佐須小学校)の一室で、健康医療ケアチームが開いた集会のようすです。この日は地区の皆さんが参加。放射線防護の観点から食事や暮らし方について医師のアドバイスを聞いたり、フットケアやマッサージを受けたり、自由に会話を楽しんだりして、和やかなひとときを過ごしました。



ふくしま再生の会
田尾陽一 理事長

昭和16年生まれ。東京大学理学部大学院物理専攻修士課程修了。インターネット事業や情報システム開発の第一線で活躍。平成23年に「ふくしま再生の会」を立ち上げ、この4月から飯館村に住所を移しました。

2011年の6月でした。「大変な事故だ。現地を見に行かなければ」という思いで、有志と福島を訪れました。その時、相馬の人の紹介で面会したのが菅野宗夫さん。佐須の自宅にはまだ牛がいましたね。その時、宗夫さんから「避難先から通ってここでやることを試みたい」という言葉を聞いたのです。「再生の会」は、この出会いから生まれました。

会は、さまざまな人や組織をつなぐ「のりづけ役」として、分野では解決できない課題に向き合っています。例えば東京大学農学部にも協力体制ができていて、私たちの報告会に共催をしたり、職員と学生の有志が放射線分析に協力したりしています。また、村の委託を受けて、40人の村民と協働して行っている線量モニタリングでは、機器の校正や線量マップの作成に、つくば市の高エネルギー加速器研究機構

(KEK)が協力しています。しかし、それだけでは足りない。村を、福島を、再生するということが、「再び生きる」とはどういうことか。農業、生活、経済、家族、コミュニティ、山林：再生への手段はいろいろで、つまるところ「全部」なんですね。「再生の会」は、再生の道を考え続けていく組織なのです。

自然と人間が共生してきた飯館村の再生は、日本、東京にとっても意味のあること。戻すのではない、新しく作っていくのです。それは、精神を含んだ深い再生です。会員たちの発想で、やるべきことは次から次に出てきます。

6年が経ち、「東京からの目線では、本当のことは分からない。協働するには、住んだ方がいい」と思っ、村に移住しました。村民と一緒にやることに意味がある。これからも続けていきたいと思っています。

近頃、多くの方が、福島を話題にしなくなったと感じています。相手が近い人であっても、一人ひとり考えが違うために、話題にしない。それも一つの「分断」だと考えれば、被災地以外の人もまた、「被害者」なのではないでしょうか。被災地以外の皆さんに、このできごとを共有してもらうことは、とても重要で、それなくして福島の再生はないでしょう。そうした意味でも、再生の会で続けているいろいろな試みを、大事にしていきたいと思っています。会の皆さんの協力、支援は本当にありがたい。「自分が生きていくために大事なものがここにある」と感じて、飯館を訪れてくださる皆さんです。今を生きる私たちしか出会えない、伝えられないものがあると強く感じています。



菅野宗夫さん(佐須)

村民の立場から会の副理事長を務めています

ふくしま再生の会

専門家と村民、市民ボランティアで組織する認定NPO法人。有志18人で原発事故の周辺地域を訪れた平成23年6月、田尾さんが、帰路の車中で会の立ち上げを宣言しました。きっかけは菅野宗夫さんとの出会い。協働で再生を目指す活動がすぐに始められました。現在の会員数は約300人で、活動への参加は自腹が基本。宿泊施設の協力も得ながら自炊もいとわず参加します。東京都杉並区に東京事務所があり、交通・宿泊の手配などを一手に行っています。さまざまな活動を記録し次世代につなぐアーカイブ事業にも取り組みます。

<http://www.fukushima-saisei.jp/>



飯館事務所

宗夫さんの旧納屋を改装した作業場が飯館事務所であり、田尾さんの住まい。ここでモニタリングデータの集積なども行っています。人々が気軽に訪れる1階の茶の間では、宗夫さんの飼い猫がくつろぎます。